

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月 1日現在

機関番号：11301
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22520655
 研究課題名（和文） 仙台藩儒学者芦東山関係史料の調査・整理と研究基盤の形成
 研究課題名（英文） Investigation, Arrangement of Archive Related to Confucian Ashi
 Tozan in Sendai Domain and the Establishment of Research Basis
 研究代表者
 大藤 修（OOTOU OSAMU）
 東北大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号：20110075

研究成果の概要（和文）：岩手県一関市大東町の芦東山記念館所蔵史料と東山の生家および分家に伝存する史料を調査・整理して目録を作成し、芦東山と彼を育んだ地域についての研究基盤を整備した。その成果を周知するために、『東北文化研究室紀要』通巻第53集に、芦東山の生涯と関係史料の伝来・構成について記した解題を付して芦東山記念館所蔵史料目録を公表するとともに、芦東山記念館のホームページでも史料目録を公開し、原史料の閲覧利用の便宜をはかった。

研究成果の概要（英文）：Through investigating, arranging and cataloging archive of Ashi Tozan Memorial Museum, of the house where Ashi Tozan was born, and of its branch family in Iwate Prefecture Ichinoseki City Daito Cho, this research formed the basis for the study about Ashi Tozan and his home village area. To open the result to the public, and to afford every facility for the usage of archive, this research contributed a paper to *Tohoku-Bunka-Kenkyusitsu-Kiyo* No. 53 with an introduction on the life of Ashi Tozan and transmission, structure of related archive, and opened the catalog on the homepage of the Ashi Tozan Memorial Museum

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、日本史

キーワード：芦東山、無刑録、近世儒学者、仙台藩、刑法、思想史、史料保存、アーカイブズ

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者の取り組んでいる大きな課題は、我が国における史料保存・公開体制の

整備とその基盤となるアーカイブズ学の構築であり、1993年4月に東北大学に赴任してからは東北地方に伝存する史料を対象

に調査・整理を進めてきた。本研究課題もその一環をなすものである。

(2) 芦東山(あしとうざん)は元禄9年(1696)に仙台藩領の陸奥国磐井郡東山洪民村(現岩手県一関市大東町)に生まれ、安永5年(1776)に没した儒学者である。幼名は「善之助」、実名=諱は「胤保」「徳林」、通称は「幸(孝)七郎」で、「東山」は号である。

彼は洪民村の肝煎の家に二男として生まれ育ち、享保6年(1721)、仙台藩5代藩主伊達吉村にその学才を認められて儒員に抜擢され、元文元年(1736)に仙台藩校の「学文所」(明和9年=1772より「養賢堂」と称す)が開設されると、その指南役に任ぜられた。しかし、平等思想の持ち主であった東山は、藩当局に危険人物視され、足掛け24年間に及ぶ幽閉生活を強いられた。その間に著した『無刑録』は、明治に入り、我が国における近代的な刑法論書の嚆矢として評価され、元老院より官版として刊行されたことにより、世に知られるところとなった。

(3) 東山には直系の子孫がいないので、義兄の芦孝之丞が東山生家の屋号「深芦」(ふかあし)芦家から分家創設した「柴桑」(さいかん)芦家が、『無刑録』原本をはじめとする東山の遺稿、日記、書状などの大部分を引き継いで保存していた。明治期に「柴桑」芦家から「伊勢堂」芦家が分家創設されるが、その初代の祥平は柴桑や深芦、その他の諸家に伝来していた東山関係史料を収集し、東山の遺稿集の編纂に取り組んだ。

それらを引き継いだ伊勢堂4代目の芦文八郎氏は、昭和58年(1983)に大東町洪民の自宅に「芦東山先生記念館」を設置して保存・公開されていた。それを一関市大東町に寄贈されたのを機に、東山の郷里に「芦東山記念館」が創設されることになり、平成19年(2007)10月1日に開館した。

同館は芦文八郎氏が寄贈された史料と新たに諸氏から寄贈された史料を所蔵しており、それらは東山のみならず、江戸時代の学問史や地域文化史を研究する上でも貴重なものであるが、専門の学芸員が配置されていなかったため、史料の整理が行き届かず、目録も未整備であった。研究代表者は同館創設に当たっては展示の監修を委嘱され、開館後は運営委員を務めていた関係で、科学研究費

補助金の交付を得て本研究課題に取り組むことにした。

2. 研究の目的

芦東山記念館所蔵史料と同地域に伝存する関係史料の調査・整理を実施し、東山関係史料の伝来の経緯、伝存形態、史料相互の関係などについて史料学的な研究を行い、それを踏まえて解題を付した史料目録を公表して、芦東山と彼を育んだ地域についての研究基盤を整備することを目的とする。

また重要史料については筆耕して将来の史料集の刊行に備える。

3. 研究の方法

(1) 芦東山記念館所蔵史料は三百数十点である。東北大学大学院文学研究科日本史専攻の学生数名を研究協力者に雇用して同館に赴き、その調査・整理を行った。

史料は整理封筒に収納し、研究代表者が作成したフォーマットに従い、史料1点ごとに表題、内容、作成者、宛名、作成年月日、形態などの基本データをパソコンに入力して、史料目録を作成した。

(2) 芦東山記念館に移管する前に芦文八郎氏が保管されていた史料群は、元は異なる家に伝来していた史料によって構成されているので、元の出所、「伊勢堂」芦家に収集された経緯などを調べて史料群の成り立ちを考究し、それを踏まえて史料目録の解題を執筆した。

(3) 重要史料についてはデジタルカメラで撮影し、東北大学大学院文学研究科の学生を雇用して筆耕を進め、将来芦東山記念館で史料集を発行する準備をした。

(4) 2010年末と2011年春に芦東山の生家である「深芦」芦家の御当主より千点余の史料が新たに芦東山記念館に寄託されたので、その整理と目録作成を行った。

(5) 「深芦」芦家から義兄の孝之丞が分家して創設した「柴桑」芦家に伝わる史料群を調査して、数千点に上る膨大な史料群が伝存していることを確認した。そしてまず母屋で保

管されていた史料の整理から着手し、五百数十点を目録化した。

4. 研究成果

(1) 芦東山記念館所蔵史料を整理し目録を作成して、閲覧利用に供しうるようにした。目録は、東山の生涯と関係史料の伝来・構成について記した解題を付して、東北大学大学院文学研究科東北文化研究室が2012年3月に発行した『東北文化研究室紀要』第53集に公表するとともに、芦東山記念館のホームページでも公開している。

芦東山は思想史と刑法史において重要な位置を占めている人物であり、人間平等主義に立った思想と刑法論は今日でも国際的に顧みるべき価値を有しているが、関係史料の調査・整理が進んでいなかったこともあって研究蓄積に乏しい。

記念館所蔵の基本史料が閲覧利用できるようになったことにより、今後の研究の進展が期待できる。記念館所蔵史料群の中には室鳩巢が東山に宛てた書状も十数通含まれており、当時の学問状況がうかがえる内容である。それ以外にも江戸時代の学問史を研究する上で貴重な史料が多く存在する。また、地域文化史研究にも資するところの大きい史料群である。

(2) 芦東山は、我が国における近代的な刑法論書の嚆矢と評価されている『無刑録』を執筆したことで、法曹界では明治期より知られ、歴史関係の辞典には必ず取り上げられている人物であるが、研究が進んでいなかったこともあって、一般的な知名度は同時期に活動した東北地方の思想家である安藤昌益に比べはるかに低い。

そこで、東山の生き方と思想を、その背景となる江戸時代の学問・文化と関連づけて市民にも理解してもらうために、2010年10月24日開催の芦東山記念館開館3周年記念特別展講演会で「江戸時代の文化・学問環境と芦東山」題して講演した。

2012年6月24日には、市民会員の多い仙臺郷土研究会の講演会で「仙台藩儒学者芦東山関係史料の伝来と記念館所蔵史料群の構成」という演題で講演し、それを文章化して、2012年12月発行の『仙臺郷土研究』第285号に掲載した。

また、日本歴史学会誌『日本歴史』第776号(2013年正月発行)の新年特集号「日本史の中の長寿」に依頼されて執筆した「老いていかに生きるか」と題する論文でも、芦東山の生き方と思想について論じた。

(3) 芦東山の生家の「深芦」芦家の御当主より新たに芦東山記念館に寄託された千点余の史料群を整理して目録化し、閲覧利用できるようにした。

同家に伝わった芦東山に関する史料はすでに芦東山記念館に入っているため、新たに寄託された史料群の大部分は、陸奥国磐井郡東山渋民村の肝煎の職務に関係する文書であることが確認できた。

(4) 「深芦」芦家の分家である「柴桑」芦家に伝わる史料群を調査して、数千点に上る膨大な史料群が伝存していることを確認し、まず母屋で保管されていた史料の整理を行い、五百数十点を目録化した。

同家の当主は近世後期に渋民村肝煎や磐井郡東山北方の大肝煎を務め、幕末には仙台藩最初の洋式高炉「文久山」を開設した。近代には当地域の名望家として様々な分野で活動していた。したがって、近世・近代の当地域の歴史を研究する上で重要な文書が多く伝存しているが、御当主が急逝されたために整理作業を中断せざるをえなかった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 大藤 修、老いていかに生きるか—下野の老農「田村吉茂」と仙台藩儒学者「芦東山」一、日本歴史、査読有、776号、2013、115—124
- ② 大藤 修、仙台藩儒学者芦東山関係史料の伝来と記念館所蔵史料群の構成、仙臺郷土研究、査読無、285号、2012、2—6
- ③ 大藤 修、仙台藩儒学者芦東山の生涯と関係史料の伝来・構成：付「芦東山記念館所蔵史料目録」、東北文化研究室紀要、査読無、53集、2012、1—32

<http://ir.library.tohoku.ac.jp/re/>

[学会発表] (計2件)

- ① 大藤 修、仙台藩儒学者芦東山関係史料の伝来と記念館所蔵史料群の構成、仙臺郷土研究会講演会、2012年6月24日、仙台市東北外国語観光専門学校
- ② 大藤 修、江戸時代の文化・学問環境と芦東山、芦東山記念館3周年記念特別展講演会、2010年10月24日、芦東山記念館

〔その他〕

ホームページ等

岩手県一関市芦東山記念館

<http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/6,0,146,288,html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大藤 修 (OOTOU OSAMU)

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：20110075